

あちこちのざき（実績紹介） | 一般家庭から有名建築まで、建材で支えてきた岡山の街づくり

■材木屋の自宅の使い方その2

今回は座敷を紹介します。

今や和風建築でも、殆ど見られなくなった二間続きです。
これが12畳の本座敷。



間境欄間やその間の吊り束も今や消えてしまいました。

12畳の天井板は霧島杉



8畳の天井は吉野杉の中杵です。



— 材木屋が見た木材と建物 —

(株) WNW のざき会長 野崎 和良



床は2畳の畳床です。

床柱は霧島杉の芯去り材、前杵の太鼓杵です。
8畳の脇座敷にも床がありまして、こちらは
北山杉の天然出絞丸太になります。



床の間には出書院も付いています。

書院柱はタイヒ（台湾ヒノキ）の四方杵です。



管柱は全て北山杉の面皮。

吉野杉の鴨居、長押、廻り縁、天井竿の造作材を使用しました。
こうした材料は、今や殆ど使われることが無くなりました。
しかし我が家は築後60年近くなりますが、良い物を使っていると長持ちしますから、結局お得ですよ。

◆こちらの写真をぜひ
カラーでご覧下さい！

スマホのカメラで右記 QR コード
を読み取るだけ→

その1



その2

